

## GT サウンド 試聴会報告 (2017.4.30)

GT サウンドが、今回はイケダのカートリッジを使用したアナログの試聴会を開催するというので行ってきました。このところ、毎年参加しており、その模様は、[GT サウンド試聴会報告 \(2015.5.2\)](#) と [GT サウンド試聴会報告 \(2016.5.6\)](#) で報告しています。

### <使用機材>

使用機材の紹介はありませんでしたが、スピーカーは SRS-1 のようであり、カートリッジは IKEDA サウンド 9XX、アームとトランスもイケダの製品、アンプと CD プレイヤーは例年どおりアキュフェーズが使用されていました。



当日のセッティング

### <試聴の経過>

試聴会というよりは、例年と同じく講演会のように、GT サウンドと IKEDA の代表から、それぞれ開発の経緯と意図、製品の構造や材質についての詳しい説明がありましたが、省略いたします。話に脱線が多く、製品の説明よりは、業界の裏事情やオーディオ業界が直面している問題などの方に興味が行ってしまいました。

試聴はヒラリー・ハーンのバイオリン、キース・ジャレットピアノトリオのアナログから始まりましたが、ヒラリー・ハーンのヴィヨームやキース・ジャレットのベーゼンドルファーの味わいを忠実に再現するというよりは、スピーカーの個性で聴かせるという印象でした。

イケダのカートリッジの紹介の後、チューニングに使用するという藤圭子がかかり、ついでジャズボーカルもかかりましたが、ホーン特有の非常に明晰でリアル

な感じで、こういった曲でチューニングされているということが理解できました。この後、辻井伸行のリストがかかりましたが、キース・ジャレット同様、ピアノの機種の間味が十分に出ていない印象でした。

この後、オーケストラという希望で、アバドの幻想交響曲、アンセルメの三角帽子、キング・インターナショナルのブラームスのダイレクトカッティング盤などが続きましたが、ホーンの迫力は感じられたものの、バスレフポートのチューニングの問題なのか、低域がかぶり気味でオーケストラの分離に不満が残りました。ダイレクトカッティング盤の前には、昨年と同様、各社、各種の裸のドライバーとホーンの6×2の組みあわせのデモがあり、GTサウンドのホーンの帯域の広いこと、癖の少ないウッドホーンの特徴が分かりました。

総じて、ドライバーとホーンの良さは理解できましたが、システムとしては低音の処理と繋がり具合に改善の余地があるように感じました。

**IKEDA** のカートリッジについては、**GT** サウンドのスピーカーの個性に隠れてしまって、本来のポテンシャルが把握できないまま終わってしまったのが残念でシステムを替えて聴いてみたいと思います。

以上